

【北海道伊達開来高等学校】遠隔等を活用した大学等の協力による持続可能な社会を担う人材育成

新しい教育方法を活用した教科等横断的な学びの curricuラムの概要

学校設定科目「だて学」

- 1 目的
地域を題材に探究的な学びを深めること
- 2 概要
 - ・各教科の特色を生かし地元について知るとともに、将来、自らがどう貢献できるのか探究する。
 - ・高等教育機関や事業所などと連携することで、発展的な課題の解決に取り組む。

【高等教育機関等と連携した学びのイメージ】

【「だて学」に関連する各種分野】

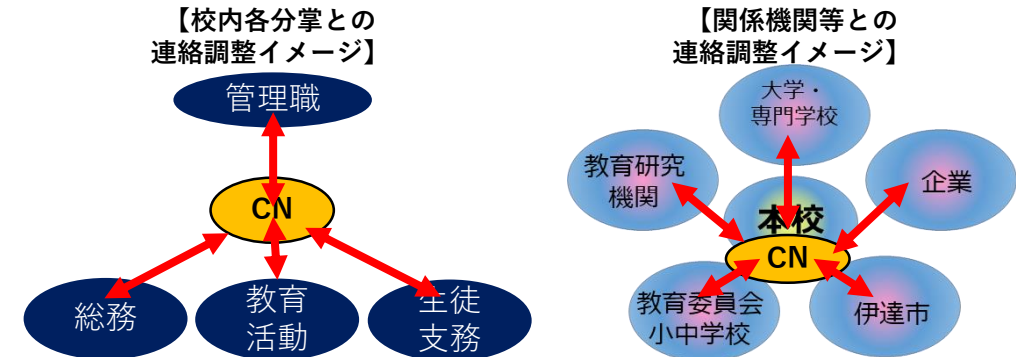
国語科分野	芸術（美術）分野
地歴・公民分野	外国語科分野
数学科分野	家庭科分野
理科分野	情報科分野
保健体育科分野	商業科分野



関係機関との連携・協働体制の構築方法

主にコーディネーター（以下「CN」という。）が次の役割を担い、関係機関等と連携・協力体制を構築。
※R4はCN人材が見つからず、校長がCN機能を担って取組を進めた。

- ①「だて学」のコンセプトを関係機関に説明
- ②連携・協力する関係機関等との連絡調整
- ③校内における連絡調整
- ④運営指導委員会やコンソーシアム会議の運営 等



令和4年度の目標

- ①オンラインを活用して高等教育機関から講義を受けるなど、より専門的な教育を受けられる機会を設ける。
- ②生徒が設定した課題に応じて、継続的に専門家と研究協議を行い指導助言が受けられるよう、様々な高等教育機関等との連携体制を構築する。
- ③STEAM教育を柱とした教科等横断的な学習を推進するカリキュラムを開発する。

取組状況

- ①総合的な探究の時間等において、高等教育機関の遠隔講義を試行実施
- ②「だて学」をはじめとした学校設定科目や総合的な探究の時間等において、研究の基盤となる知識について高等教育機関の講義を受けられる体制を構築
- ③生徒が設定した課題に応じて、専門家と研究協議を行い指導助言が受けられるネットワークの構築

成果と課題

- 本校への入学者数を増加させることができた。
- 高等教育機関との連携体制を構築することができた。
- 地域企業と連携した授業を実施することができた。
- 探究活動を更に充実させる必要がある。
- 開発したカリキュラムを通じて身に付けた資質・能力の評価方法を確立する必要がある。
- CN人材を発掘し、任用する必要がある。

【山形県立小国高等学校】白い森未来探究プログラム

構想の概要

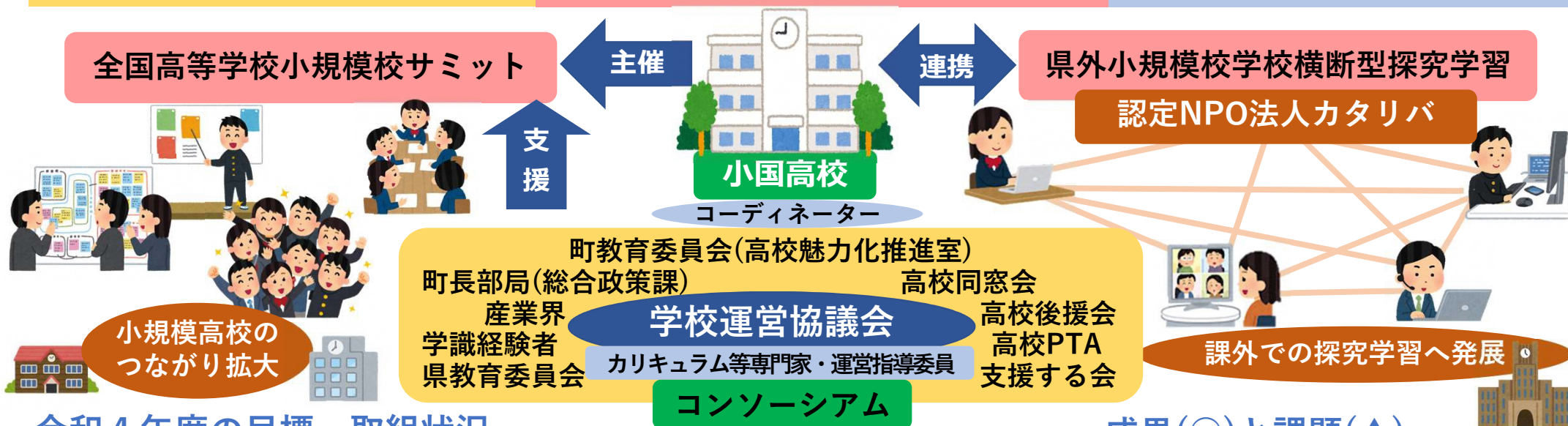
ICT端末を用いた遠隔・オンライン教育を活用し、AI教材による個別最適化された学び直しと人的リソースや多様性を生み出しながら行う先進的な県外小規模校横断型探究学習の推進により、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成を図る。

関係機関との連携・協働体制の構築方法

○小国町や小国町教育委員会との連携

○県外小規模校横断型探究学習のための連携

○連携協力を担うコーディネーター



令和4年度の目標・取組状況

成果(○)と課題(▲)

①AI教材の導入による教科学習の個別最適化

- ・ Qubena(1年生)とQureous(2年生)を導入
- ・ 単元初めに前時の復習、ワークブックとして課題配信
- ・ 自分で学習内容を計画して自学自習(マイプラン学習)

- AI教材の学習効果あり(生徒の学習効果や学習意欲の肯定的回答90%以上)
- ▲ (AI教材に限らず)生徒が自主的に学ぶ仕掛けづくりの工夫必要

②教科等横断的な学びの推進と探究学習の個別最適化

- ・ 英語×地理×家庭、国語×保健体育等(年7回)
- ・ 県外小規模校とオンラインでの探究学習(年4回)
- ・ 学識有識者からの探究学習への助言

- 教科の枠でなく多角的な視野で物事に触れることで世の中のつながりを実感(各教科の重要性に気づくきっかけに)
- ▲ 育成を目指す資質・能力の焦点化

③オンラインコミュニティの構築と進学希望者の学びの動機喚起

- ・ 小規模校連携放課後交流活動「マイプロ相談会」
- ・ 小規模校連携放課後企画「マイテーマを持って進学した先輩との交流会」の実施

- 探究学習の充実・深化
- ▲ 進学者リソースの共有(リアルな声が聞ける)と意欲喚起

【益田永島学園 明誠高等学校】明誠高校バーチャルキャンパス始動プロジェクト

授業に「明誠高校バーチャルキャンパス」の設置運営を取り入れる。最大の特色はバーチャルキャンパスを用意するのではなく、設置から生徒に取り組みさせることである。どのような産業、文化、企業とつながりたいか、つながるべきかを考え、仮想空間上に招待し、多彩な新しい価値の創出を目指す。

設置だけではなく運営においても生徒主体で進める。生徒は運営上のルールや課題、役割を話し合い、実行させることで、学びを自分事としてとらえる主体性を育む。また運営には、本学の学びを希望する子どもたち、地域住民にも参画してもらう。運営上生まれる新しい価値は地域に還元し、地域社会からの評価や、想定される経済的なりターンなどで、持続可能なキャンパス運営の実現を目指す。



CNには、一般社団法人eRa-tions（イレーションズ）代表の松島将悟を配置する。主な実績は、令和2年よりIT技術を使った地域連携のモデルを研究し東海大学附属甲府高等学校をはじめ、沖縄、大阪のフリースクールや通信制の高等学院へオンライン等での専門講師派遣を行い授業の実施を行っている。また、近年急速に成長し情報媒体の主流となりつつあるSNSを活用し、専門講師募集や情報発信、様々な業種の個人やフリーランス、企業との交流もある。上記のことから得てきた実績、経験値、人脈を本事業に投下し事業の発展に必要なだと判断された人や情報を随時連携、協働させる。

成果と課題

【成果】

11月～3月の期間中に17名の専門講師をメタバース内に招待し、107名の生徒を対象に4回、計17の特別授業を実施。

【参加専門講師一例】

バスケット日本代表、インフルエンサー、金融教育、脳科学、海外活躍現役大学生プロ格闘家、性教育plus、海外サッカー代理人 等

【特別授業一例】

- ・10代からの起業を考える
- ・JKとJDが知っておくべき「自分のトリセツ」
- ・世界一周～ストリートチルドレンに学ぶ生き方～
- ・SNSの力で自分の特技を仕事にする/ダンス・TikTok体験 等

【課題】

- ・学校側の通信インフラ整備、活用媒体のアップデート等、通信設備の整備
- ・プロジェクトメンバー間での意思疎通や会議、打ち合わせ時間の確保
- ・更に生徒の意見を取り入れながら研究事業の展開、発展



令和4年度の目標

創造的教育方法の指導法の確立を目指す。
そのために、下記4点の実施を目指す。

- 1：地域資源の整理と調整
- 2：生徒たちの内面的変化の変遷の把握、
- 3：仮想空間内の教室の運営の確立
- 4：本事業成果の広報



取組状況

- 1、候補となり得る資源を整理、調整中。
- 2、関係機関へアンケート結果を診断中。
- 3、生徒が主体的にメタバースの作成を行う。運営はCNがサポートする。
- 4、事業開始時期がずれ込んだため、広報は来年度以降に実施予定。

市商地域創造プログラム ～Society5.0に対応する先端的な学びと新しいカリキュラムの開発～

市商地域創造プログラムを通して生徒たちがSociety5.0に求められる「失敗から学ぶ力」を中心とする「市商マネジメント力」を自ら獲得し、そのために必要な個別最適で教科等横断的なカリキュラムを開発することを目的とする。

※高知商業高等学校では、①コミュニケーション力、②課題発見・課題解決力、③プレゼンテーション力、④講義理解力、⑤ICT・英語活用力、⑥察する力、⑦失敗から学ぶ力の7つの力を総称し「市商マネジメント力」としている。

校外事業推進協力者

- ・吉川 牧人（静岡県立掛川西高等学校教諭）
- ・富永 宏（静岡県立掛川工業高等学校教諭）
- ・石川 勝敏（HAL Labo代表）
- ・高知県歴史文化財課、高知城管理事務所
- ・高知市広聴広報課、高知市道路管理課
- ・高知商工会議所

コーディネーター 兼 運営指導委員
東森 歩（ファン度レイジング代表）

高知商業高等学校
情報マネジメント科

運営指導委員会

- ・川村 晶子（高知大学次世代地域創造センター）
- ・森 和美（高知大学次世代地域創造センター）
- ・市原 俊和（高知市教育委員会教育企画監）
- ・岡崎 伸二
（高知市教育委員会情報教育学校支援アドバイザー）

令和4年度目標

- 生徒が、新しい学びや未知の役割に対し、個人またはチームで取り組むことができる。
- 生徒が、教科等横断的な学びや個別最適な学びの効果を実感できている。
- 生徒が、「市商マネジメント力」を総合的に身に付けることができる。

活動状況

未知への挑戦

高知城追手門 プロジェクションマッピング

- 県外講師とオンライン・オフラインでつながり、新しい知識や技能の獲得に取り組んだ。
- 高知の歴史・現状・未来を題材に、生徒自らが学習課題を設定して、取り組んだ。
- 市商マネジメント力の失敗から学ぶの伸長を図るため、生徒自身が主体的に設定した課題の解決に取り組めるよう助言に力点をおいた。



成果と課題

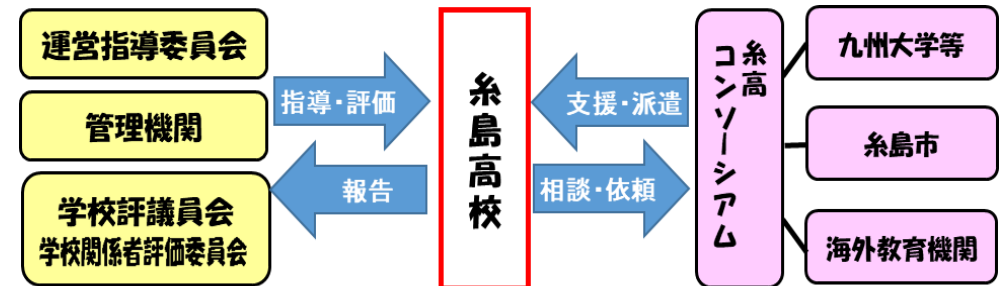
【成果】

- 生徒にとって**未知でリアルな活動**が生徒の主体性を高めることにつながった。
 - 情報マネジメント科3年生全員が市商マネジメント力の向上を実感。
 - 高知市教育委員会（管理機関）と連携することで、評価やSociety5.0につながる学びにつながる研修を実施できた。
- 【課題】学校全体への波及を図るため
- 校内全教科が科目指導によって協力する仕組みを「**市商創造学**」として実施開始する。また、校外との新たな連携を新コンソーシアム構築につなげる。
 - うえのために校内組織を刷新する。

【福岡県立糸島高等学校】構想名：「創：グローバルリーダー」

遠隔同時双方向型教育プラットフォーム「糸高プラットフォーム」を活用したカリキュラム開発

- 教科等横断型カリキュラム「糸高志学」の創造と実践
- 外部講師によるオンライン授業「論理コミュニケーション」の実施
- 探究活動での協働的な学びにおける1人1台端末の活用

運営指導委員会からの指導・助言
糸高コンソーシアムによる連携支援

令和4年度の目標

- 学校ネットワーク再構築の検討
- ICTを活用した授業コンテンツの充実とオンデマンド化
- 教科等横断型カリキュラムの創造と実践
- 看護・医療系クラスの教科等横断型カリキュラムの創造
- 高校教員が国内外の研究者等と自由に協働できる連携協力体制の構築

取組状況

- ネットワークの増強による通信環境の改善
- 全校生徒への1人1台端末の配備
- 外部講師によるオンライン授業「論理コミュニケーション」の実施
- 他高校のネイティブ英語教師などによる遠隔授業の実施

成果と課題

成果

- ネットワークの増強による通信環境の改善
- 11月、2月に開催した実践発表・公開授業を通じたICT活用のノウハウの普及
- 授業動画配信の実施
- 他高校のネイティブ英語教師などによる遠隔同時双方向授業の実施

課題

- 1人1台端末導入に当たり、同時入力・編集機能等を活用した次世代を見据えた新たな学びのモデルの創出
- Society5.0に対応する先進的な学びとして、大学等との遠隔同時双方向型授業を取り入れるカリキュラムづくり
- 職員全体での取組推進のための校内組織「研究開発事業実施委員会」の再構築

【熊本県立人吉高等学校】 人吉・球磨ライジング構想 ～新時代を切り拓き、地域の復興をかなえる、創造的な学びの構築～

令和4年度の目標

新たな社会（Society5.0）を牽引し、災害からの創造的復興を担う人材の育成
復興に向けて気づく・思考する・創造する

連携・協働体制の構築



地域課題解決に向けた探究活動

令和4年度の実施状況

成果と課題

BYHプログラム I

・講演会、フィールドワークの実施、個人探究

【 講演会6回、フィールドワーク2回、個人探究活動発表会の実施 】
成果：地域課題への理解の深化、地域課題解決に向けての主体性の向上
課題：具体的な解決案の提言に向けて次年度BYHプログラムへ繋げる。

人吉・球磨もやいすとプログラム

・熊本県立大学オンライン連携

【 球磨川流域圏バーチャルキャンパス17回、双方向授業2回 】
成果：オンラインを活用した熊本県立大学との連携、熊本県立大学生との意見交換
課題：専門的・多角的な視点を用いて、新たな地域課題を発見・解決する力を育む。

クロスカリキュラム

・教科横断型のクラスカリキュラム授業

【 クロスカリキュラムの授業実践8回 】
成果：授業の終末部で他教科の教諭が知見を加える「ゲストティーチャー」の定型化
課題：全教科で体系的なクロスカリキュラムの実践。

先端技術（VR・AI等）の活用

・先端技術を生かした深い学びの実現

【 研究機関（東京大学）視察1回、職員・生徒へのVR講座の実施 】
成果：職員・生徒のVRに対する知識・理解の向上、VRゴーグル等の機器の充実
課題：VR・AIを活用した教育方法の開発の実践。